

佐賀建設新聞

国土交通省顧問

佐藤直良氏が特別講演

第20回工法講演会を開催

挨拶する原裕理事長



ミラクルソル協会(原裕理事長)は1日、唐津市二ツ子の同市高齢者ふれあい会館「ひふれ」で2013年度(第20回)ミラクルソル工法講演会を開催した。佐賀県や唐津市、武雄市などの官公

民が「有明海問題の本質と再生への展望」と題し講演。国土交通省顧問(前事務次官)の佐藤直良氏が「最近の国土交通行政について」の演題で特別講演を行った。

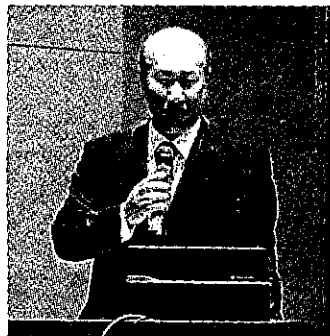
冒頭、原理事長は「ガ

ララス廃材を再資源化したコンクリート業者、建設業者ら約180人が参加。原理事長が工法の特長を説明し、佐賀大学名誉教授で日本建設技術統括本部長の林重徳氏が「最近の国土交通行政について」の演題で特別講演を行った。

ララス廃材を再資源化したコンクリート業者、建設業者ら約180人が参加。原理事長が工法の特長を説明し、佐賀大学名誉教授で日本建設技術統括本部長の林重徳氏が「最近の国土交通行政について」の演題で特別講演を行った。

ミラクルソル協会

特別講演を行う佐藤直良
国土交通省顧問



発行所
株式会社 建設新聞社
〒849-0301
小城市牛津町乙柳1145-7
Tel. 0952-66-5750 (代)
FAX 0952-66-5751
購読料 月額5,775円(税込)
毎週火・木・土曜日発行
日本専門新聞協会会員
ホームページ
<http://www.kensetsunews.co.jp>
e-mailアドレス
kssaga@lime.ocn.ne.jp

よって、比重や吸水・非吸水性能を調節できる。講演会では、原理事長が「多目的環境材料ミラクルソルの活用技術―ミラクルソルの最近の話題と環境負荷低減―」をテーマに講演。ミラクルソルの開発背景や目的、土木や緑化など用途に応じた様々な工法について解説し、施工事例を紹介した。その中で「工法を選ぶ場減、廃資源の再利用など

「底泥、底質における硫酸還元菌の活性化を促すことで二枚貝の溺死、貧酸素水の発生に繋がる。また、海域が透明になることにより、相乗的に赤潮発生の頻発化、大規模化に繋がる」と持論を展開。有明海の再生に向けては「海苔活性処理剤の厳正管理と湾奥部干潟域における底質改善事業を拡大することが重要。そのすべは、底質環境は2、3年程度で急速に改

環境負荷の低減に関する項目を取り入れ、環境に配慮した工法を選んでいくことが大切」と話した。林氏は、有明海異変について海苔活性処理剤(酸処理剤)の使用が原因だと指摘し、



会場のようす

善し、アゲマキ、タイラギ、モガイなどの貝類が復活する」と話した。佐藤氏は、公共事業関係費の推移や13年度国土交通省予算の概要、社会資本の整備状況、建設産業の現状と課題について解説。建設産業の課題については「建設投資の急激な減少に伴い、地域社会の担い手である建設企業が将来にわたって社会

資本の維持管理や除雪、災害応急対応などを行うことができるか懸念される。また、入職者の減少、技術者の高齢化により人材不足が進行している」と話した。最後に「日本の建設企業の工程管理は世界一だと思ふ。建設業者の能力を生かす枠組みを国全体で作っていく必要がある」と激励した。